

新局面のミャンマー

～民主化勢力と少数民族勢力の共闘

その背景と軍政との戦いの展望を探る～

参加無料

6月22日(土) 13:00～14:30

日本経済大学 KOROKAN 113教室

※当日は公共交通機関でのご来場をお願いいたします。

参加定員: 先着 100名まで

【講師プロフィール】 井本勝幸 特命教授

昭和39年福岡県生まれ。福岡県立筑紫丘高校、東京農業大学、立正大学卒業。
2011年1月より、単独で反政府ビルマ少数民族地域へ。ミャンマー内戦停戦に貢献し、
現在は、現地の協力を得て旧日本軍兵士のご遺骨調査活動も行なっている。

UNFC(統一民族連邦評議会) コンサルタント。
GMSAEDC(メコン川流域圏農業教育開発センター) 代表。
タイ・日教育開発財団(タイ政府認可財団) 最高顧問。
NPO法人グレーターメコンセンター(日本政府外務省支援) 副理事長。
日本ミャンマー未来会議代表。 多くの人権賞、外務大臣表彰を受けている。

2021年2月1日の国軍によるクーデターから3年以上が経過したミャンマー。

軍事政権に反発する民主派勢力は国境地帯で70年以上に亘って自治権と連邦制を模索・対立してきた少数民族勢力と一体化し、民主派側勢力として抵抗を続けている。

昨年10月27日の民主派側の一斉蜂起から形勢は逆転し、国軍は国内各地で敗退。地方の主要都市は民主派側が制圧し、既に民主的な自治が行われ始めている。

軍事独裁か、民主化かの決着が戦争によってしか解決できなくなったミャンマーにおいて、今後の行き先はどうなるのか？

ミャンマー(ビルマ)と長年の歴史を共有する日本はどのようにミャンマー国民と伴走するのか？

読売新聞取締役で元アジア総局長であり、ミャンマー問題を専門としている深沢淳一氏をゲスト講師に迎え、

ミャンマー・タイ国境地帯で避難民への緊急人道支援を継続中の井本勝幸が今後のミャンマーと日本との関係について語ります。



【ゲスト】 深沢淳一氏

読売新聞元アジア総局長、国際貿易投資研究所客員研究員。

読売新聞で国内外の経済、国際ニュースを担当。

2001年からアジア経済特派員(シンガポール駐在)、
2010年からアジア総局長(バンコク駐在)をそれぞれ3年以上担当し、
激変のミャンマー情勢、タイ政変などを取材。

著書は「不完全国家ミャンマーの真実 民主化10年から
クーデター後までの全記録」(文真堂、書籍及び電子版)など。

お申し込みについて

お電話にてお申し込みください。

TEL: 092-922-5131

日本経済大学 庶務課 担当: 岩脇

※ キャンセルの際は事前にご一報ください。



日本経済大学

Japan University of Economics

福岡キャンパス

福岡県太宰府市五条3-11-25

TEL: 092-922-5131